



安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している：
JIS Z 7253:2012

改訂日 2025-03-20
改訂番号 3.2

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 2-Mercaptoethanol
カタログ番号 1610710, 1610710EDU, 1610710XTU
CAS番号 60-24-2

安全データシートの供給者の詳細

本社 Bio-Rad Laboratories Inc. 1000 Alfred Nobel Drive Hercules, CA 94547 USA	製造者 Bio-Rad Laboratories, Life Science Group 2000 Alfred Nobel Drive Hercules, California 94547 USA	日本法人／連絡先住所 140-0002 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F バイオ・ラッド ラボラトリーズ 株式会社
--	---	---

テクニカルサービス 03-6404-0331
life_ps.jp@bio-rad.com
緊急連絡電話番号 CHEMTREC (ケムトレック):81-345209637

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 試験研究用試薬
使用上の制限 情報なし

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

引火性液体	区分 4
急性毒性(経口)	区分 3
急性毒性(経皮)	区分 2
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	区分 3
急性毒性(吸入) - 粉じん／ミスト	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分 1A
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介した影響	授乳に対する又は授乳を介した影響はない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 2
区分 2 中枢神経系。	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2
区分 2 肝臓。	
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 - 急性	区分 1
水生環境有害性 - 慢性	区分 1
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

**注意喚起語**

危険

危険有害性情報

飲み込むと有毒

皮膚に接触すると生命に危険

吸入すると有毒

皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

臓器の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

引火性液体

以下の臓器の障害のおそれ： 中枢神経系。

長期にわたる、又は反復ばく露による以下の臓器の障害のおそれ： 肝臓。

注意書き**安全対策**

- ・取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと
- ・眼、皮膚、衣類につけないこと
- ・屋外又は換気の良い場所だけで使用すること
- ・環境への放出を避けること
- ・熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙
- ・保護手袋／保護衣及び保護眼鏡／保護面を着用すること

応急措置

- ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること
- ・口をすすぐこと
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石けん(鹼)で洗うこと
- ・直ちに医師に連絡すること
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・医師に連絡すること
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること
- ・皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること
- ・漏出物を回収すること
- ・火災の場合：消火するために乾燥した砂、粉末消火剤又は耐アルコール泡消火剤を使用すること

保管

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと
- ・換気の良い場所で保管すること

廃棄

- ・内容物／容器を適用される現地、地域、国、及び国際規則に従って廃棄すること

他の危険有害性

情報なし。

3. 組成及び成分情報**化学物質・混合物の区別**

CAS番号

化学物質

60-24-2

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベントリ	化審法番号	安衛法インベントリ	安衛法番号
2-メルカプトエタノール	60-24-2	50 - 100	既存	(2)-458	既存	(2)-458

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

変換係数のデータが無い場合は係数は1として算出

第1種指定化学物質

2-メルカプトエタノール 100

重量%

化学名又は一般名	政令名称	金属、CN、F、その他	変換係数	含有率 %	区分	政令番号	管理番号
2-メルカプトエタノール	2-メルカプトエタノール			100	第2種指定化学物質	2-131	820

労働安全衛生法

通知対象物質

該当しない

表示対象物質

該当しない

毒物及び劇物取締法

毒物

化学名又は一般名	CAS番号	区分	含有率 %
2-メルカプトエタノール	60-24-2	毒物(法第2条、別表1)	100.00000000

4. 応急措置

一般的なアドバイス

治療を行う医師にこのSDSを示すこと。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移すこと。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。症状が出た場合には、直ちに医師の手当てを受けること。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行うこと。直ちに医師の手当てを受けること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。

皮膚に付着した場合

汚染された衣服及び靴を脱ぎ、直ちに石けん(鹼)と多量の水で洗うこと。直ちに医師の診察／手当てを受けること。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがある。

眼に入った場合

直ちに少なくとも15分間まぶた(瞼)の裏側まで多量の水で洗うこと。洗っている間は眼を大きく広げたままにすること。受傷部をこすらないこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。意識のない者には、何も口から与えてはならない。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

掻痒感。発疹。じんま疹。眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある。灼熱感。咳及び／又は喘鳴。呼吸困難。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

すべての着火源を排除すること。医療者に物質の関与を伝え、自身の保護及び汚染の拡大を防止するための措置を講じること。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。負傷者が本製品を飲み込んだり吸入した場合には口移し法は使わないこと。一方向弁付きポケット・マスク又は他の適切な呼吸医療装置を使用して人工呼吸を行うこと。蒸気やミストを吸入しないこと。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。

医師に対する特別な注意事項

過敏な人に感作を引き起こすおそれがある。症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤。二酸化炭素(CO2)。水噴霧。耐アルコール泡消火剤。

使ってはならない消火剤

高圧水で漏出物を散乱させないこと。

特有の危険有害性

製品及び空容器を熱源及び着火源から遠ざけること。火災の場合には、水噴霧でタンクを冷却すること。製品は感作性物質である、又は感作性物質を含む。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。

特有の消火方法 大規模火災	水噴霧でドラムを冷却すること。 警告：放水では十分な消火の効果を得られない場合がある。
消火活動を行う者の特別な保護具及び 予防措置	消火を行う者は自給式呼吸器及び消火活動用の完全装備を着用しなければならない。個人用保護具を使用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。静電気に対する予防措置を講ずること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。蒸気やミストを吸入しないこと。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
封じ込め方法	リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。後で廃棄するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。
浄化方法	静電気に対する予防措置を講ずること。せき止めること。不活性吸収材料で吸収すること。回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。
その他の情報	項目7及び項目8に記載されている保護措置を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項	個人用保護具を使用すること。蒸気やミストを吸入しないこと。熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気に対する予防措置を講ずること。産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。製品の取扱いを閉鎖系内に限定するか適切な排気式換気を設けること。保護眼鏡、不浸透性の保護衣、手袋及び／又は長靴を着用すること。
衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。機器、作業区域及び衣類を定期的にクリーニングすることが推奨される。休憩前及び製品の取扱い直後に手を洗うこと。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。適切な手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること。汚染された衣類及び手袋は脱ぎ、再使用する前に内側を含めて洗濯すること。蒸気やミストを吸入しないこと。

保管

安全な保管条件	容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。熱、火花、炎及び他の着火源(例えば、点火バーナー、電気モーター及び静電気)から遠ざけること。適切な表示のある容器に保管すること。個別の国内規制に従って保管すること。現地の規則に従って保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。施錠して保管すること。製品とラベルの指示に従って保管してください。
---------	---

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した職業被ばく限界が設定された危険有害物質を一切含んでいない。
------	--

生物学的許容値	この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した生物学的制限値が設定された危険有害物質を一切含んでいない。
設備対策	シャワー 洗眼場 換気システム
環境ばく露防止	情報なし。
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	適切な手袋を着用すること。不浸透性手袋。
眼及び／又は顔面の保護具	密封性の高い安全ゴーグル。適切な眼保護具を使用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。長袖の衣類。不浸透性衣類。耐薬品性エプロン。不浸透性の保護長靴。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	液体	
物理状態	液体	
色	淡黄色	
臭い	硫黄臭	
臭いのしきい値	情報なし	
特性	値	備考・方法
融点／凝固点	-100 °C / -148 °F	
沸点又は初留点及び沸点範囲	158 °C / 316.4 °F	
可燃性	データなし	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界	データなし	
爆発又は可燃の下限界	データなし	
引火点	74 °C / 165.2 °F	
蒸発速度	データなし	情報なし
自然発火点	295 °C / 563 °F	
分解温度	データなし	情報なし
pH	データなし	情報なし
粘度		
動粘性率	データなし	情報なし
動的粘度	データなし	情報なし
水への溶解度	水と混和	
溶解度	データなし	情報なし
n-オクタノール／水分配係数(log値)	データなし	情報なし
蒸気圧	データなし	情報なし
密度及び／又は相対密度		
相対密度	1.1143	情報なし
相対ガス密度	データなし	情報なし
粒子特性		
粒径	データなし	該当しない
粒径分布	データなし	該当しない
その他の情報		
爆発性	情報なし	
酸化性	情報なし	

10: 安定性及び反応性

反応性	情報なし。
-----	-------

化学的安定性	通常の条件下で安定。
危険有害反応可能性	通常の条件下で安定。
避けるべき条件	熱、炎及び火花。過剰な熱。
混触危険物質	強酸。強塩基。強酸化剤。
危険有害な分解生成物	提供された情報に基づき知見なし。
爆発データ	
静電放電に対する感度	あり。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

毒性の数値尺度 - 成分情報

化学名又は一般名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
2-メルカプトエタノール	= 244 mg/kg (Rat)	112 - 224 mg/kg (Rabbit)	-

略語及び頭文字

Rat: ラット

Rabbit: ウサギ

症状 掻痒感、発疹、じんま疹、発赤、眼の発赤および流涙を引き起こすおそれがある、咳及び／又は喘鳴、呼吸困難。

製品情報

経口	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。飲み込むと胃腸刺激、吐き気、嘔吐、及び下痢を引き起こすおそれがある。飲み込むと有毒(成分に基づく)。
吸入	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。気道刺激を引き起こすおそれ。吸入すると有毒である(成分に基づく)。
皮膚接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。皮膚に接触すると生命に危険(成分に基づく)。皮膚接触により感作を引き起こすことがある。反復又は長期にわたるばく露による皮膚への接触は、敏感な人にアレルギー性反応を生じるおそれがある。皮膚刺激。
眼接触	この化学物質又は混合物の特定試験データはない。強い眼刺激(成分に基づく)。発赤、掻痒感、及び痛みを引き起こすおそれがある。
皮膚腐食性／刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	成分に対して利用可能なデータに基づく分類。強い眼刺激。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
生殖細胞変異原性	分類できない。
発がん性	分類できない。
生殖毒性	分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	飲み込むと臓器の障害のおそれ。皮膚に接触すると臓器の障害のおそれ。

以下の臓器の障害のおそれ: 中枢神経系。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。

長期にわたる、又は反復ばく露による 肝臓。
以下の臓器の障害のおそれ:

誤えん有害性 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

化学名又は一般名	藻類／水生植物	魚類	甲殻類
2-メルカプトエタノール	EC50: =12mg/L (72h, <i>Desmodesmus subspicatus</i>)	-	EC50: =1.52mg/L (48h, <i>Daphnia magna</i>)

残留性・分解性 情報なし。

生態蓄積性 この製品のデータはない。

成分情報

化学名又は一般名	分配係数
2-メルカプトエタノール 60-24-2	-0.056

土壌中の移動性 情報なし。

オゾン層への有害性 分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

他の有害影響 情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。

汚染容器及び包装 空容器を再利用しないこと。

14. 輸送上の注意

IMDG

国連番号又はID番号 UN2966
説明 UN2966, 環境有害物質(液体)(備考1(4)の表に掲げられたもの及び備考の欄の規定により当該危険物に該当するもの又は備考2(8)の基準を満たすものであって他の危険性を有しないもの), 6.1, II, 海洋汚染物質
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 6.1
容器等級 II
海洋汚染物質 P
EmS番号 F-A, S-A

ADR

国連番号又はID番号 2966
説明 2966, THIOGLYCOL, 6.1, II, Environmentally Hazardous
国連分類(輸送における危険有害性クラス) 6.1

容器等級 II
海洋汚染物質 あり
ERG コード 6L

IATA

国連番号又はID番号 UN2966
説明 UN2966, 環境有害物質(固体)(備考1(4)の表に掲げられたもの及び備考の欄の規定により当該危険物に該当するもの又は備考2(8)の基準を満たすものであって他の危険性を有しないもの), 6.1, II
国連分類(輸送における危険有害性 6.1
クラス)
容器等級 II

日本

国連番号又はID番号 UN2966
国連分類(輸送における危険有害性 6.1
クラス)
容器等級 II

15. 適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
該当する 詳細情報については項目3を参照
労働安全衛生法
該当しない
通知対象物質
該当しない
表示対象物質
該当しない

毒物及び劇物取締法

毒物 - 毒物及び劇物取締法別表第1及び毒物及び劇物指定令第1条

消防法

引火性液体、第4類、アルコール類、危険等級 II、400リットル
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)
該当しない

船舶安全法

詳細については項目14を参照

航空法

詳細については項目14を参照

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律及び施行令、別表第1の2; 区分Y

港則法

詳細については項目14を参照

大気汚染防止法

大気汚染防止法第17条、第1項及び大気汚染防止法施行令第10条で定める事故時の措置の対象となる 特定物質

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

16. その他の情報

作成者 Bio-Rad Laboratories, Environmental Health and Safety
改訂日 2025-03-20
改訂記録 更新された安全データシート 項目。14。

安全データシート で使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 項目8: ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
Sk*	経皮吸収	+	感作性物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ 源

環境有害物質・特定疾病対策庁 (ATSDR)
米国環境保護庁ChemViewデータ ベース
欧州化学品局
欧州食品安全機関(EFSA)
米国環境保護庁
急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)
米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法
米国環境保護庁高生産量化学物質
フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)
危険有害性物質データベース
国際統一化学情報データベース (IUCLID)
日本政府によるGHS分類
オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)
NIOSH(米国労働安全衛生研究所)
米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)
米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)
米国国家毒性プログラム(NTP)
ニュージーランド化学物質分類・情報データベース(CCID)
経済協力開発機構、環境・健康・安全に関する文書
経済協力開発機構、高生産量化学物質点検プログラム
経済協力開発機構、スクリーニング情報データセット
世界保健機構

免責事項

この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシート のおわり